

兵庫県産キクイムシ類相の多様性研究

～森林環境を代表する昆虫、キクイムシ類の多様性解明を目指して～

環境人間学研究科 環境人間学専攻

◎D1 ^{み き はづき}三木 巴月、教授 ^{やまだ かずたか}山田 量崇

キーワード

種の多様性、木材穿孔性昆虫、キクイムシ類



研究概要

キクイムシ類とは、コウチュウ目ゾウムシ科キクイムシ亜科及びナガキクイムシ亜科に属する昆虫の総称である。キクイムシ類は枯れ木や衰弱木、ときには生木穿孔し、巣を造って生活をしている。一部の種は甚大な被害をもたらす農・林業害虫や外来種として知られている。そのような種を迅速に発見、認識するためには、地域ごとの種構成を把握しておくことが重要である。兵庫県からは従来 61 種のキクイムシ類が知られていたが、兵庫県の環境の多様性、キクイムシ類の種数を考慮すると十分な調査が行われているとはいえない。そこで、本研究では県内各地の野外調査および国内研究機関所蔵の標本調査によりサンプルを収集し、兵庫県産キクイムシ類の種多様性を調査した。また、トラップを用いた定量調査によりキクイムシ類の季節消長を調べた。得られた約 3000 個体の標本を分類学的に精査した結果、兵庫県から 115 種のキクイムシ類が確認された。また、定量調査の結果から、4～5 月の春季に多くの種、個体数が出現することが明らかとなった。

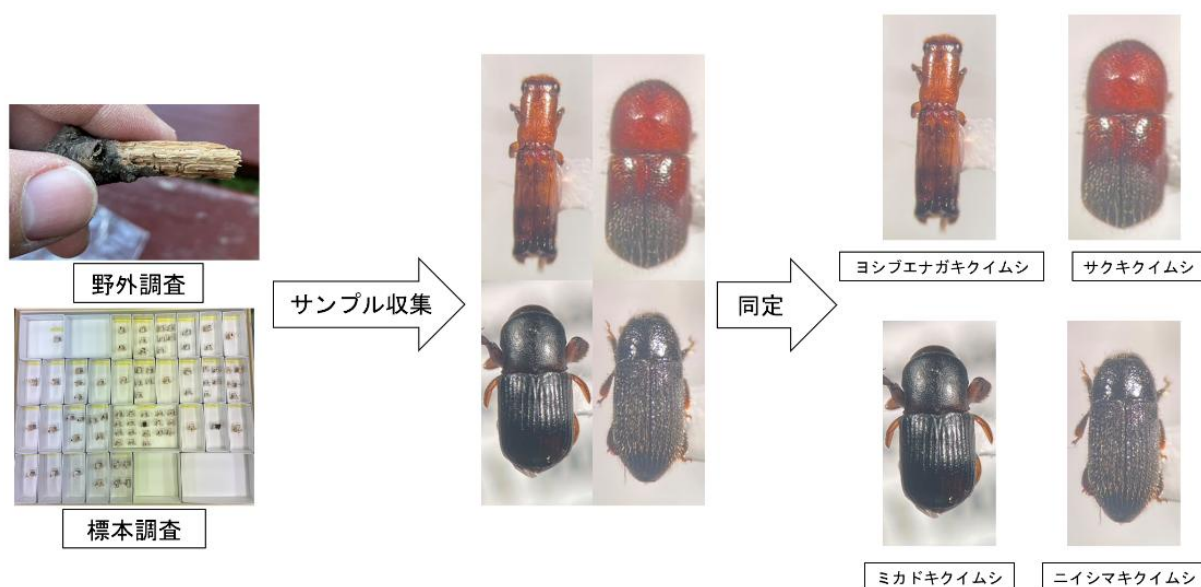


図1. 本研究の概略

アピールポイント

今回の調査結果から、新たな外来種や重大な森林害虫は認められなかった。また、本研究により兵庫産キクイムシ類相の解明度を上げることができ、近隣の府県と比較して多くの種が生息することを明らかにした。その中には未記載種 3 種、本州未記録種 1 種、日本未記録種 1 種が含まれていた。これらの成果は精査したのちに論文化し投稿予定である。